

19日の新党「中道改革連合」の綱領発表会見で、政権を取っても米軍普天間飛行場の辺野古移設を進めるとした立憲民主党の安住淳幹事長の発言は、地元沖縄の猛烈な反発を招いた。安住氏は20日、釈明に迫られた。新党から出馬を予定する立候補予定者や立民関係者も衆院選を前に影響を最小限にするため火消しに走った。ただ、新党としての新基地建設に対する姿勢は定まらないままだ。

(1面に関連)

不信感払拭されず

「辺野古停止現実的でない」
立民・安住氏が発言釈明

安住氏の発言で、立民県連には戸惑いが広がった。喜友名智子県議は党本部との協議の場で県連側の思いを伝えればかりだったと明らかにし、「怒り脱力」と投稿した。県連は21日にも党本部に抗議と撤回を求める。新党の政策に対する働きかけも行う。県連関係者は「立民と新党の関係も明確ではなく、手探り状態だ」と話した。

安住氏の発言の翌20日午前、名護市辺野古を抱える3区で立候補を予定する屋良朝博衆院議員は急きよ、沖縄から東京へ向かった。屋良氏は安住氏に対して、沖縄で怒りの声が上がっていることを直接伝え、「県民、有権者に大きな誤解を与える」と迫った。面会後に取材に応じた屋良氏は、安住氏が発言を「事実上撤回した」と強調した。

ただ、屋良氏は自身の公式Xなどで「(安住氏は)『本意で

単眼
複眼

「切り取り」強調も 新党関係者「大打撃」

はなく、言葉の一部が切り取られたものだ」と強く悔恨の意を示しました」と報告した。「切り取られた」との表現について、屋良氏は取材に「私の評価は挟んでいない。言ったことを書いた」と説明した。

発言自体の問題ではなく、切り取った報道に責任があるかのような見解は記者団の取材に応じた玉城デニー知事からも。玉城知事は20日、屋良氏から聞いた話として「(安住氏は)一部分を少し誇張されたような形で出てしまつて申し訳ない」と言っていた」と述べた。その上で「落ち着くところに落ち着いた。ぶれずに辺野古中止、反対を訴えていきたい」と語った。

安住氏は20日午前、屋良氏との面会前に報道陣に釈明したが、結局「辺野古移設に関する整理はまだできていない」と述べるにとどまり、新党としての姿勢は不明なままだ。発言への不信感は払拭されていない。

新党加入関係者は「政策が煮詰まつてないことは誰の目にも明らかだ。まず選挙に勝たなきゃ話にならない。余計な発言で沖縄の候補者は大打撃だ」と懸念した。(嘉数陽、明真南斗)